

年末・年始 ^{セーフ}Safe ^{ワーク}Work 推進強調期間

何かと慌ただしくなる年末・年始。

忙しさのあまり、定められた手順やルールをつい省略してしまう…

大掃除や棚卸しの時に、脚立やはしご、足場代わりに乗った椅子などから落ちそうになる…

凍結した路面、雨や雪で濡れた階段で転びそうになる…

そんなことはありませんか？


年末年始は、季節特有の労働災害が起こりがちです。

東京労働局では、12月1日から1月31日までの期間を

「**年末・年始 Safe Work 推進強調期間**」として、労働災害防止を呼びかけます。



期間 平成 30 年 12 月 1 日 (土) から 平成 31 年 1 月 31 日 (木) まで

(期間中に、Safe Work ロゴマーク  の活用勸奨や、労働災害防止のためのパトロール、事業者の方々への取組要請などを東京労働局・労働基準監督署から行います)

事業者の皆さんの実施事項 ~ 次の取組をお願いします ~

年末年始の繁忙期をとらえた計画的、かつ、安全衛生に配慮した事業の運営

繁忙期には、安全衛生に配慮した計画的な事業運営を行うことが特に重要です。

労働災害防止の気運の醸成に向けた取組

Safe Work ロゴマークの掲示、管理職や従業員への研修の実施、労働安全衛生に関する行事の開催、安全標語の募集を行うなど。

経営トップによるパトロールの実施

安全衛生大会等の開催

積雪・凍結等、冬期における転倒防止、交通労働災害防止対策の徹底

大掃除や棚卸し等の作業における脚立・はしごからの墜落、転落防止対策の徹底

過去に発生した災害を踏まえた労働災害防止対策の徹底

不安全行動防止のための「一人 KY (危険予知)」等の実施

その他、本期間にふさわしい安全衛生の取組

上記以外にも安全衛生の取組はたくさんあります。

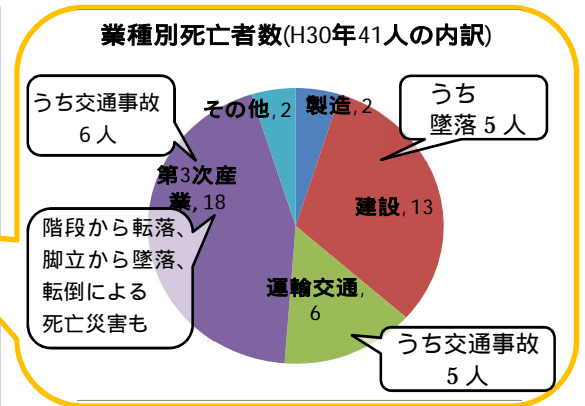
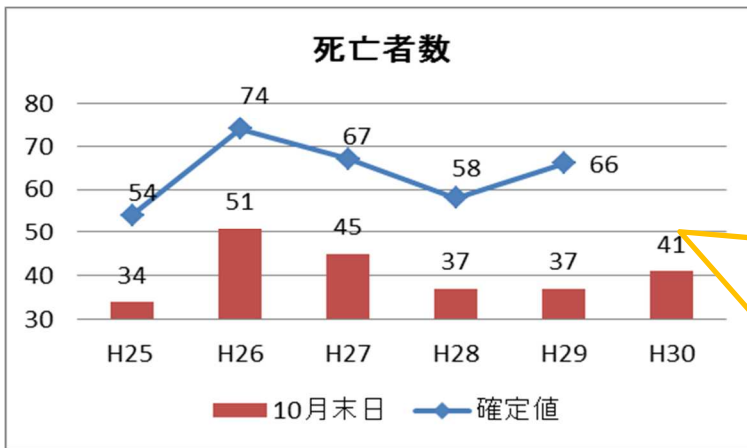


東京労働局・労働基準監督署では、“Safe Work TOKYO”の下、「**トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心**」をキャッチフレーズに労働災害防止の取組を推進しています。

平成 30 年（10 月末時点）の東京労働局管内の労働災害発生状況は、以下のとおりです。
各事業場において、労働災害防止に向けた取組をお願いします！

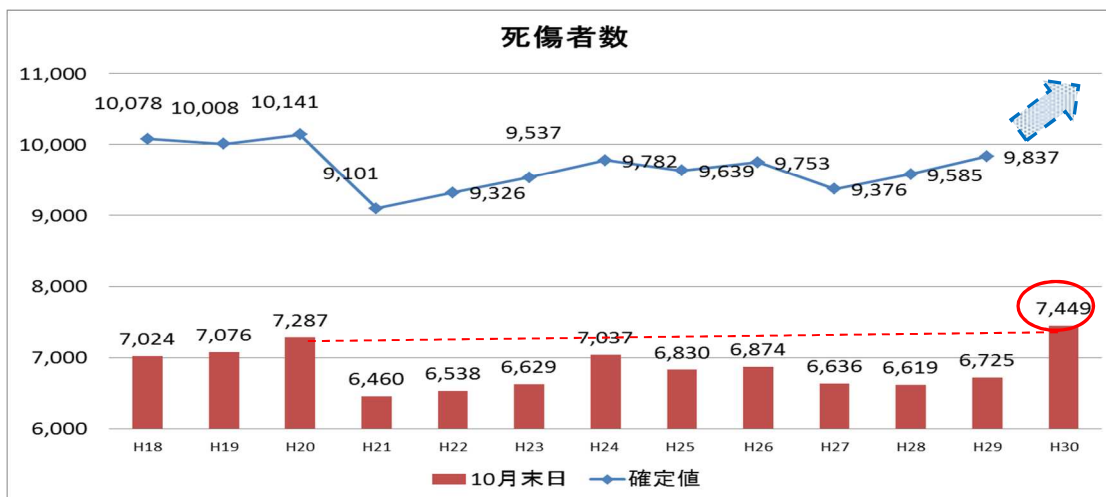
死亡者数

- ・前年比 4 人増加。製造業で 2 人、運輸交通業で 3 人、第三次産業で 7 人増加。
- ・墜落・転落で 13 人、交通事故で 11 人死亡した。



死傷者数

- ・前年比 7 2 4 人増加。平成 20 年以來 10 年ぶりに、年間で 1 万人を超えるペース
- ・転倒災害が多発。(冬季における降雪・通路等の凍結による転倒災害の増加も懸念)
- ・製造業のはさまれ巻き込まれ災害、運輸交通業の交通事故、飲食店の切れこすれ災害も多発



1 万人を超えるおそれ！

- ・前年比 724 人増
- ・年間 1 万人を超えた平成 20 年の 10 月末時点と比較しても 162 人増

災害事例(12 月～1 月に発生)

建設業
(年齢：40 代)
事務所階段を移動中、階段に雪が付着していたため転落
左脛骨骨折・休業 1 ヶ月

スーパーマーケット
(年齢：50 代)
惣菜売り場の床が濡れていたため、足を滑らせ転倒
頭部挫傷・休業 2 週間

運送業
(年齢：60 代)
公道において、トラックから荷降ろし中、足を踏み外し、転落
左鎖骨骨折・休業 1 ヶ月

飲食店
(年齢：40 代)
厨房内で、食材を切っていたところ誤って包丁で指を切った
左中指切傷・休業 17 日